

## 努力と苦勞の歴史!!

### -1 カラスとの終わりなき知恵比べ

#### 「ごみステーション物語」

町内には4か所のごみステーションがあり、それぞれ設置条件が違い利用者数も不定状態だった。

平成21年7月1日からの有料化に伴い、すべて各利用者による当番制とした。当番は一週間交代で、火曜日から月曜日までとした。(月曜日の『燃やせるごみ』を市で収集後に清掃し、火曜日の当番者に引き継ぐ)

当初は各ステーションに集められたごみ収容袋を、ごみネットで覆った状態でしたが、カラスはネットの隙間から収容袋を引っ張り出し、仲間を呼び込んで(?)ちらかし放題でした。(遠い当番者より近所の人が清掃することが多いのが現状)

他の町内のステーションでは、ベニヤ合板でのカラスよけサークルや、固定の板で囲っていたり、ごみネットの片方を長く固定し巻き取る方式だったり千差万別、皆さんがそれぞれ苦勞しながら工夫してしていると強く感じられた。

各ごみステーション行脚の末『カラス撃退サークル』にたどり着き、平成23年10月から採用し効果が出ている。また、ネットの端を「レンガ」で押さえ、カラスが引っ張り出すのを防いでいる。町内の利用者には、分別と指定袋の持ち手部分をしっかり縛り、口を閉じて出すように啓蒙し理解されているが、公道近くのステーションは部外者の不当投棄が見受けられ、度々ごみパト隊のお出ましを依頼している。我々の監視にも限界があり、まだまだ苦勞がつづく…。

### -2 町内を明るくし街路灯関連の負担をゼロに

#### 「街路灯のナトリウム灯化」

町内の街路灯として、電球が蛍光灯・水銀灯・ナトリウム灯と混在し、球切れや機材の修理に苦勞していた。

札幌市の「私設街路灯引継要綱」により、平成15年12月10日から「街路灯設置要望書」を順次提出。(設置費用及び電灯料は全て市が負担し管理)

また、平成17年2月22日から「街路灯設置費補助金交付申請」を順次提出。(設置費の1/3が補助される。次年度以降は市の管理となるよう要望し…認可)

平成21年11月で一連の街路灯工事が完了。平成22年度から街路灯関係の電灯料費・修繕費はすべて市の管理となり、自治会の予算は「0」となった。

#### [経過]

平成15年 4月		平成21年11月	
ナトリウム灯	5基	31基	(31基の内訳)
水銀灯(60W)	15基	0基	・既設置分 5基
水銀灯(100W)	7基		・設置要望分 12基 (札幌市負担)
蛍光灯(20W)	7基		・設置費補助金分 14基 (自治会2/3負担)
	34基		
☆廃棄(ナトリウム灯化による調整)		3基	※自治会の経費6年間で約70万円

### -3 町内の排雪作業のいま・むかし

人力からパートナーシップ制度へ。毎年必ず襲ってくる冬将軍と除雪・排雪対策。

昭和50年代の除雪日は朝から全員総出でトラックにスコップで雪を積み上げ、そのトラック荷台に上乗りして捨場を往復した。排雪作業も平成初期には機械化となり人力は軽減し、作業時間も短縮された。平成14年以降は「パートナーシップ制度」に移行し会員の労働力はほとんど不要となった。

ただし、同制度による排雪作業は「年一回」であり、降り積もる雪の処理には悩みが多い。この対策の一助に札幌市と「公園内・河川敷地内に雪を搬入する事により、地域における冬季間の生活環境向上を目指す」とした『覚書』を締結し、利用者は限られますが、融雪期には雪割りする事を条件に雪捨てをしている。